

科 目 名

薬物治療学

Clinical Pharmacology and Therapeutics

3年 前・後期 3単位
(前期 2単位 後期 1単位) 必修

藤井 績 (薬物治療学研究室)
森内 宏志 (臨床薬学研究室)

概要・目標

【藤井】

将来、臨床現場で医療チームの一員として薬物治療に参画するためには疾患の病態生理に十分に精通しておく必要がある。ここでは各領域第一線で診療に携わっている専門臨床医師による講義を通して疾患について理解を深め、さらに最新の薬物治療法について学ぶ。2年次に履修した臨床検査化学〈C14(1)〉の知識をもとに疾患を理解すること。

【森内】

教科書を中心に消化器疾患を学び、国試問題を基本とした英語問題の演習を行い、学習したことを確実に身に付け、国試問題の解答能力と同時に医学英語を習得していく。

授業計画・到達目標

【藤井：前期（第1、第2クオータ）】

- 1) 循環器疾患〈C14(2)-1、C14(2)-2-1)~6)〉
不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患
- 2) 呼吸器疾患〈C14(2)-1、C14(3)-3-1)~3)〉
慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、拘束性肺疾患、肺癌
- 3) 代謝性疾患〈C14(2)-1、C14(3)-5-1)~3)〉
糖尿病、メタボリック・シンドローム、痛風
- 4) 血液・造血器疾患〈C14(2)-1、C14(2)-3-1)~5)〉
貧血、白血病、播種性血管内凝固症候群、紫斑病、血友病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
- 5) 緩和ケア〈C14(2)-1、C14(4)-8-1),2)〉
疼痛緩和、終末期医療
- 6) 腎臓・尿路系疾患〈C14(2)-1、C14(3)-1-1)~4)〉
腎不全、ネフローゼ症候群、腎炎、尿路結石、尿路感染症、透析療法

【森内：後期（第3クオータ）】

〈C14(2)-3〉

1. 消化器系の部位別に代表的な疾患を挙げるができる。
2. 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
3. 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
4. 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
5. 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
6. 胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病について概説できる。

授業方法

【藤井】講義は視聴覚機材を用いて行なう。

講義に使用したスライドは講義終了後、速やかに E-Learning に up する。

【森内】教科書を中心に授業を進め、英語の国試問題で演習を行う。

評価方法

【藤井】中間テスト、定期試験、出席（2/3以上必須）を総合して評価する。

【森内】原則定期試験で判断し、授業への参加態度を考慮することもある。

教 材

【藤井】教科書：「医療薬学Ⅱ 病態と薬物治療(2)」(東京化学同人) ISBN:4-8079-1166-X

参考書：「薬剤師・薬学生のための臨床医学」(文光堂) ISBN:4-8306-1296-7

【森内】「疾病と病態生理」(南江堂) ISBN:4-524-40221

履修上の注意

【藤井】循環器疾患、代謝性疾患、緩和ケアの各講義はそれぞれ専門医が担当する。貴重な機会である。臨床現場では薬剤師に何が求められているのか問題意識を持って受講すること。

【森内】復習を欠かさない事、自分なりに一生懸命勉強して分からない事がある時には研究室へ、遠慮なく質問に来る事。